

新丸山ダム建設事業 (事業費等の監理状況)

令和7年 9月18日
国土交通省 中部地方整備局
新丸山ダム工事事務所

目次

1. 事業の概要		3. 令和7年度予算	
1) 流域の概要・現状	1	1) 実施内容	18
2) 事業の目的及び計画内容	3	2) 事業実施箇所	19
3) 事業の経緯	6	3) 個別説明	20
4) 全体工程	7	(1) ダム本体関係	20
5) 第3回計画変更(R6.8)後の事業費増減	9	(2) 用地補償関係	22
6) 事業の進捗状況	10	(3) 付替道路工事関係	23
2. 令和6年度予算		4. コスト縮減	24
1) 実施内容	12	5. 新丸山ダムにおける取り組み	26
2) 事業実施箇所	13		
3) 個別説明	14		
(1) ダム本体付属関係	14		
(2) ダム本体関係	16		
(3) 付属道路関係	17		

1. 事業の概要

1) 流域の概要・現状

木曾川は幹川流路延長229km、流域面積5,275km²の我が国有数の大河川。流域市町村には、約230万人（20市13町4村）の人々が生活しており、この地域の産業・経済・社会・文化の発展の基盤を築いてきた。



位置図



丸山ダム(昭和31年3月完成)

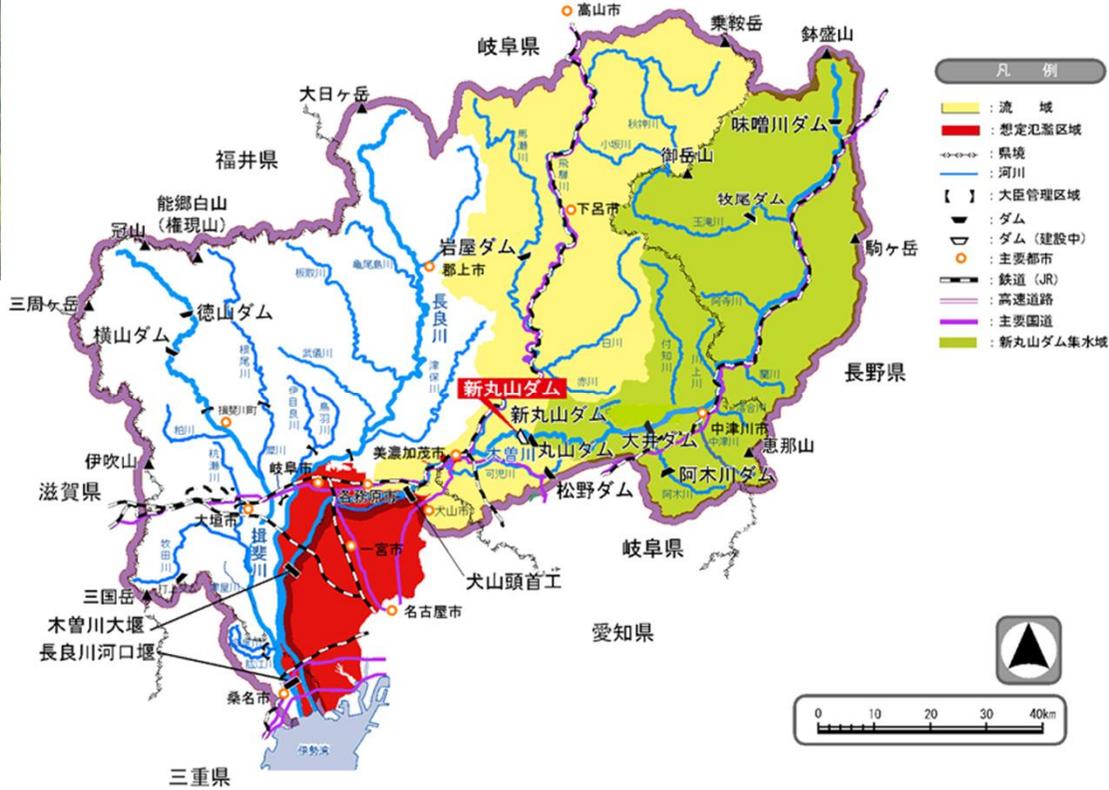
木曾川の流域概要

流域面積	5,275 km ²
幹川流路延長	約 229 km
流域市町村数 ^{※1}	20市 13町 4村
流域市町村人口 ^{※1,2}	約 230 万人

※1 流域市町村

- (長野県) 上松町、南木曾町、木曾町、木祖村、王滝村、大桑村
- (岐阜県) 高山市、中津川市、瑞浪市、恵那市、美濃加茂市、可児市、郡上市、下呂市、坂祝町、川辺町、七宗町、八百津町、白川町、東白川村、御嵩町、関市、各務原市、岐阜市、岐南町、羽島市、海津市、笠松町
- (愛知県) 犬山市、江南市、扶桑町、一宮市、稲沢市、愛西市、弥富市
- (三重県) 桑名市、木曾岬町

※2 出典：令和2年国勢調査(総務省)



木曾川・長良川・揖斐川 流域図

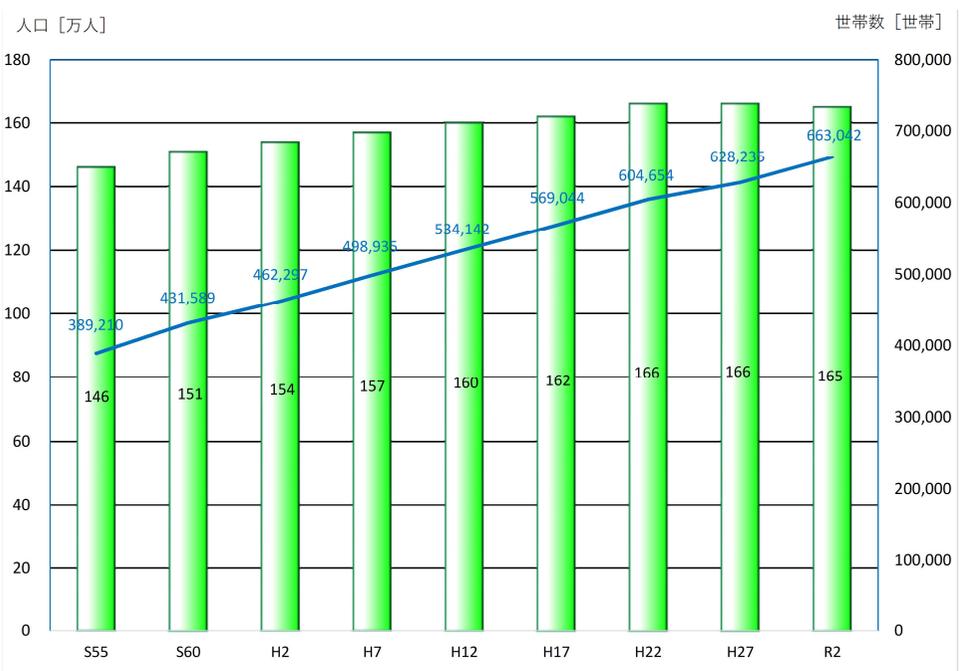
1. 事業の概要

1) 流域の概要・現状

木曽川流域内は、名神高速道路等の高速道路、JR東海道新幹線等、国土の基幹をなす交通の要衝となっている。

氾濫原内市町村の人口は近年大きな変化はなく、東海環状自動車道、リニア中央新幹線等の整備により、地域開発や市街化が進むことが予想される。

◆ 氾濫原内市町村の人口推移

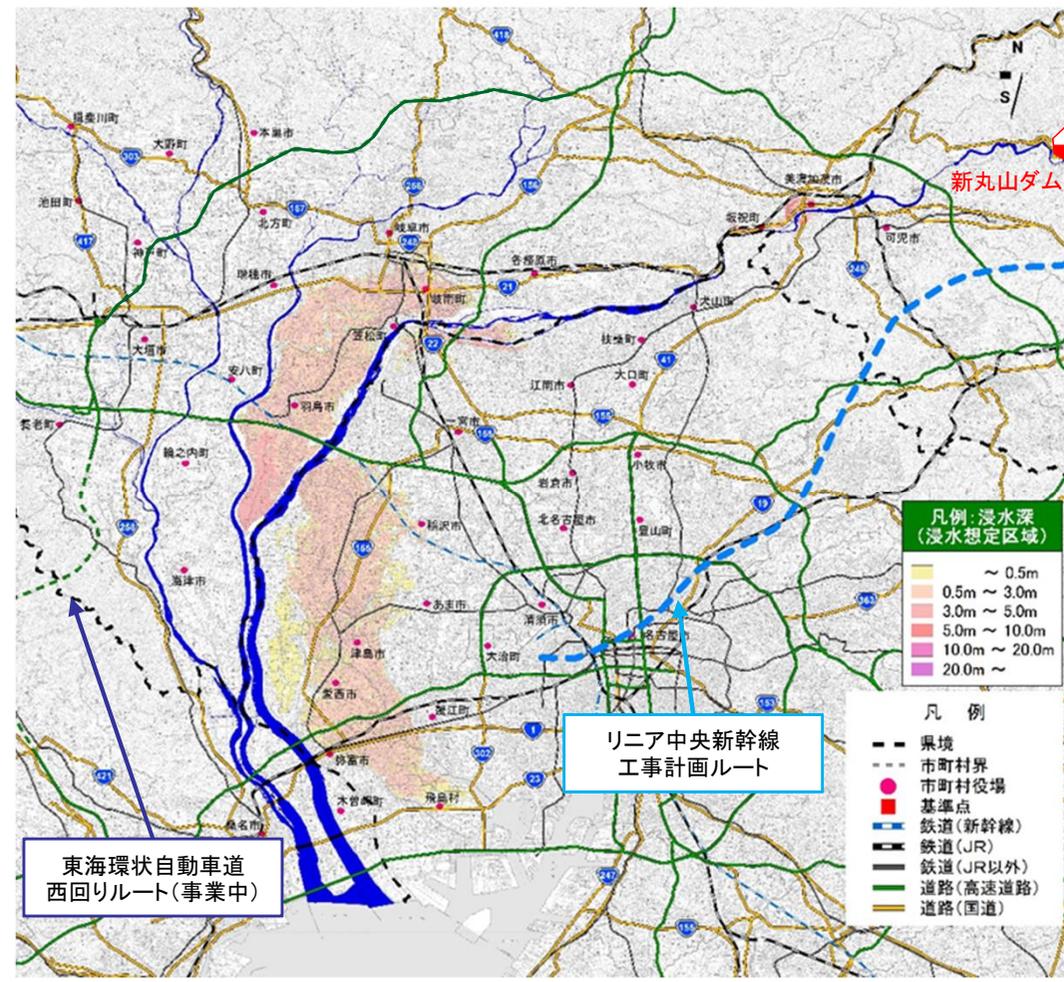


氾濫原内市町村
11市4町1村

- 【岐阜県】...美濃加茂市、岐阜市、各務原市、可児市、羽島市、坂祝町、岐南町、笠松町
- 【愛知県】...江南市、一宮市、稲沢市、愛西市、弥富市、津島市、蟹江町、飛島村

出典) 国勢調査(総務省統計局ウェブサイト)より

◆ 流域周辺の主要交通網



東海環状自動車道
西回りルート(事業中)

リニア中央新幹線
工事計画ルート

※河川整備計画の目標規模の大雨が降ったことにより想定される現行浸水想定区域

2) 事業の目的及び計画内容

国内最大級のかさ上げにより木曾川流域の安全・安心を守る

(1) 事業の目的

■ 既設丸山ダムの再開発により、洪水調節機能を増強させ、木曾川中下流部の洪水氾濫から人々の暮らしを守ると共に、新たに流水の正常な機能の維持の容量確保及び発電の増量を行う。

(2) 計画内容

○ 実施箇所(木曾川水系木曾川): (左岸)岐阜県可児郡御嵩町 (右岸)岐阜県加茂郡八百津町

○ 計画内容

< 洪水調節 >

戦後最大の昭和58年9月洪水と同規模の洪水に対して、基準地点犬山において約3,200m³/sの流量を低減させる。

< 流水の正常な機能の維持 >

1,500万m³の容量を用いて既得用水の取水の安定化及び河川環境の保全等のための流水を確保する。

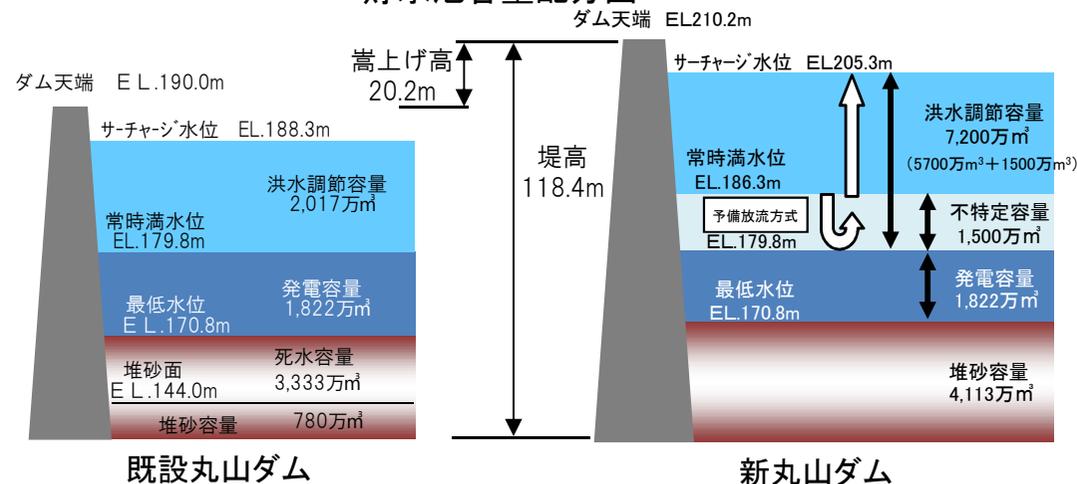
< 発電 >

既設の丸山発電所及び新丸山発電所において発電を行う。

新丸山ダム完成前後のダムの諸元

	丸山ダム	新丸山ダム	差分
形式	重力式 コンクリートダム	重力式 コンクリートダム	—
堤高	98.2 m	118.4 m	20.2 m
堤頂長	260.0m	340.6m	80.6m
流域面積	2,409 km ²	2,409 km ²	—
湛水面積	2.63 km ²	3.68 km ²	1.05 km ²
総貯水容量	7,952 万m ³	13,135 万m ³	5,183 万m ³
有効貯水容量	3,839万m ³	9,022万m ³	5,183万m ³

貯水池容量配分図

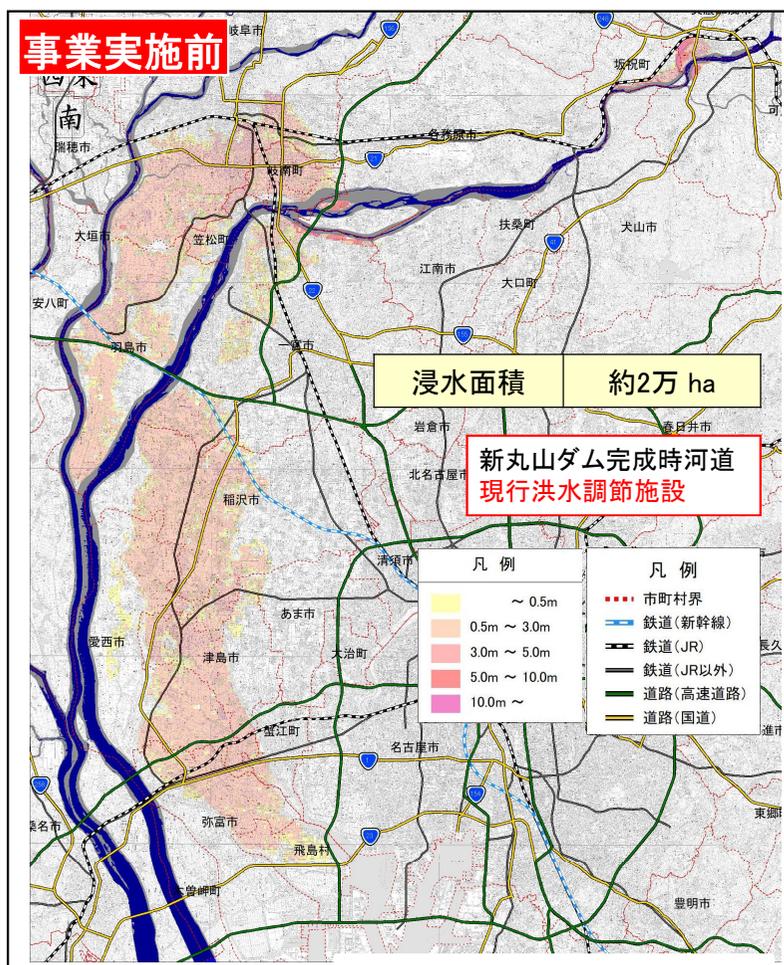


※不特定容量・・・河川における流水の正常な機能を維持するために必要な容量

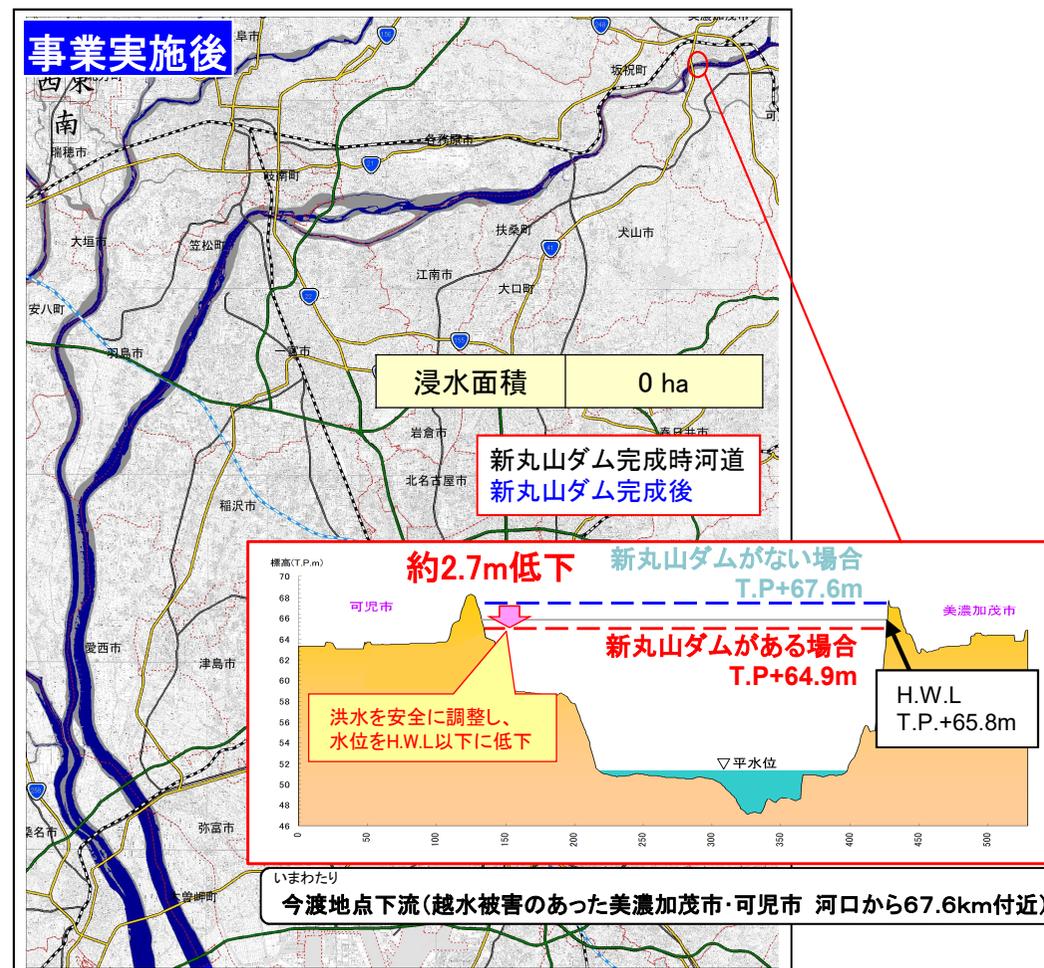
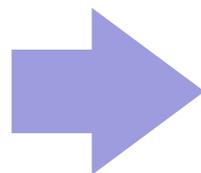
2) 事業の目的及び計画内容

(3) 事業の効果

- (洪水調節)戦後最大洪水となる昭和58年(1983)9月洪水と同規模の洪水に対して、越水被害のあった今渡地点下流の水位を約2.7m低下させ、浸水被害を解消する。
- (流水の正常な機能の維持)既設阿木川ダム及び味噌川ダムの不特定補給とあわせて、既得取水の安定化を図るとともに、1/10規模の渇水に対して、木曾成戸地点において河川環境の保全等のために必要な流量50m³/s(維持流量)の一部である40m³/sを確保(確保流量)できる。
- (発電)丸山発電所及び新丸山発電所における最大出力を188,000kWから210,500kWに増量する。



事業実施前の氾濫想定図 (河川整備計画目標規模)

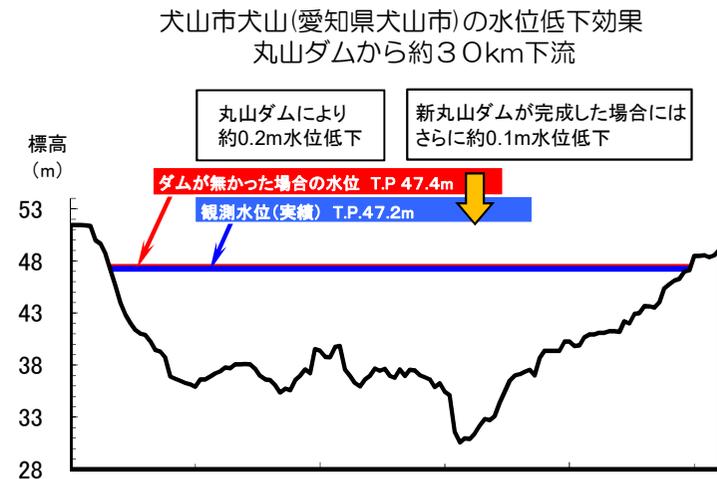
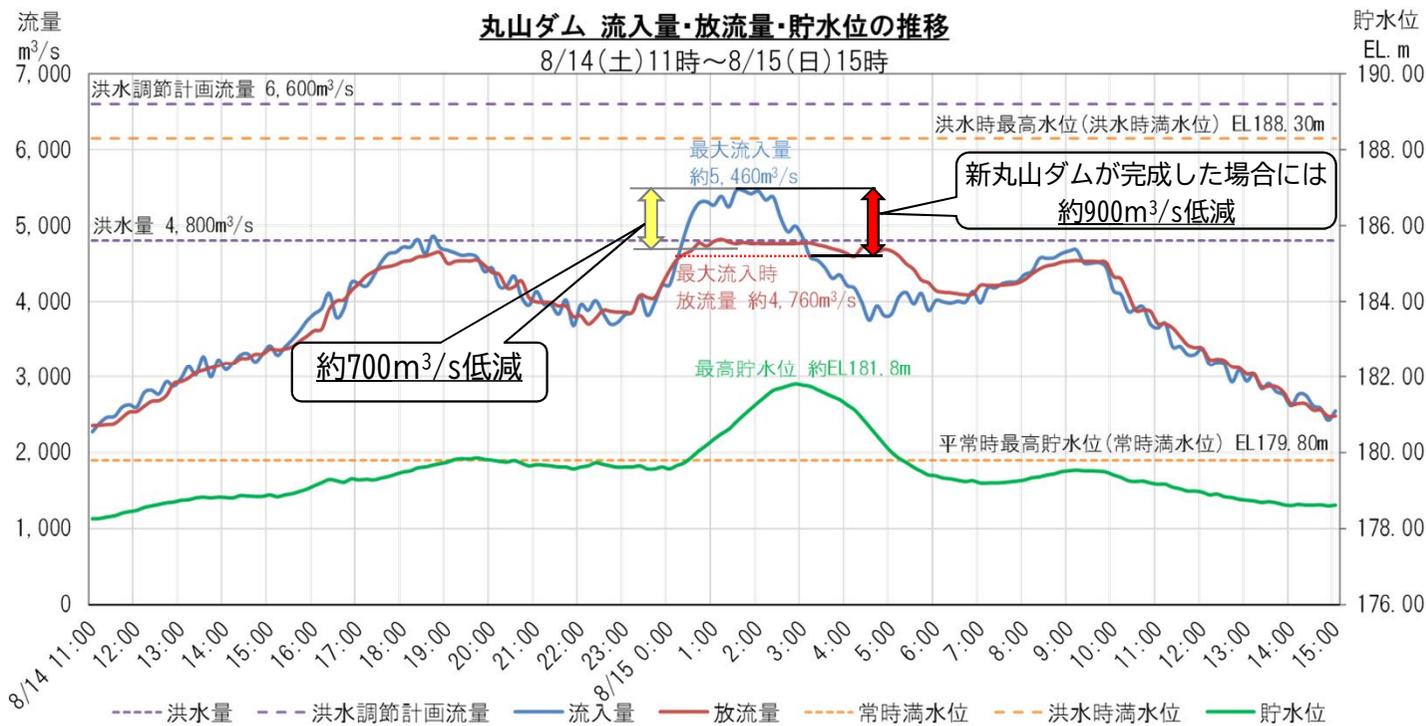


事業実施後の氾濫想定図 (河川整備計画目標規模)

2) 事業の目的及び計画内容

(3) 事業の効果 (R3.8出水の効果)

- 令和3年8月13日(金)から15日(日)にかけて南から暖かく非常に湿った空気が継続して流れ込み、丸山ダム流域では、降り始めから8/15(日)14時までの累計の降雨量が380mmに達した。
- 丸山ダムでは、8/14(土)夜のはじめから8/15(日)未明にかけて、流れ込む洪水の量が特に増加したため、洪水の一部を貯め込む防災操作(洪水調節)を実施した。
- 丸山ダムによる洪水の貯留により、八百津町八百津地区地点の水位を約0.6m低下(新丸山ダムが完成した場合には、さらに水位を約0.1m低下)、愛知県犬山市犬山地点の水位を約0.2m低下(新丸山ダムが完成した場合には、さらに水位を約0.1m低下)



3) 事業の経緯

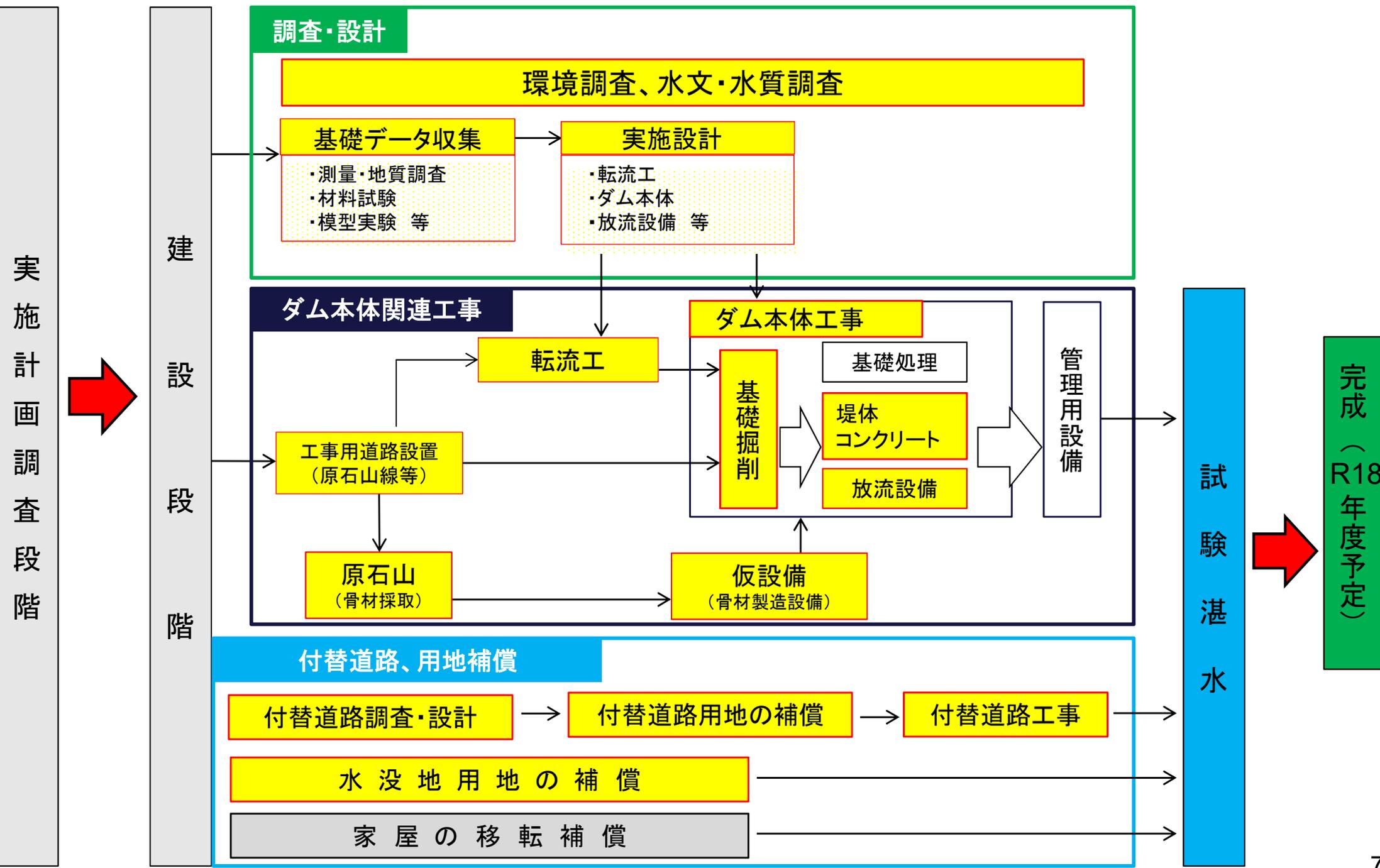
昭和55年	4月	実施計画調査着手
昭和61年	4月	建設事業着手
平成 2年	5月	特定多目的ダム法の基本計画告示(事業費(約1,800億円),工期(平成14年度))
平成 4年	3月	用地補償基準妥結
平成 4年	8月	水没地用地買収着手
平成 8年	3月	国道418号付替道路工事着手
平成14年	3月	水没等家屋移転補償契約(全49戸)完了
平成17年	6月	基本計画変更告示(工期変更(平成28年度))
平成19年	11月	木曾川水系河川整備基本方針策定
平成20年	3月	木曾川水系河川整備計画策定
平成21年	12月	検証の対象とするダム事業に選定
平成22年	3月	国道418号付替道路 八百津～潮南区間の供用開始
平成22年	12月	「新丸山ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場」を設立(H22.12.22) (平成22年12月22日から平成25年4月19日まで5回の「幹事会」と2回の「検討の場」を開催)
平成25年	7月	国土交通大臣による対応方針[継続]の決定(H25.7.31)
平成27年	1月	木曾川水系河川整備計画(変更)を公表
平成27年	2月	国道418号付替道路(潮南以東区間)工事着手
平成27年	7月	基本計画変更告示(工期変更(令和11年度)事業費変更(2,000億円))
平成28年	9月	転流工工事着手
平成29年	10月	付替県道井尻八百津線の供用開始
令和3年	3月	丸山ダムを特定多目的ダム法に基づく「特ダム化」する手続きが完了
令和3年	12月	ダム本体工事着手
令和5年	3月	「新丸山ダム周辺地域振興ビジョン」の策定
令和6年	8月	基本計画変更告示(工期変更(令和18年度)事業費変更(4,100億円))

4) 全体工程

■ : 完了箇所

■ : 現在実施中箇所

(令和7年3月末時点)



4) 全体工程

- 令和3年度からダム本体工事に着手。設計及び関連工事を実施中。令和7年3月から本体打設を開始し、継続している。
- 転流工の工事を継続するとともに、付替国道418号の八百津町潮南地区しおなみから恵那市飯地地区いひじの延長約3.5km及び、付替県道大西瑞浪線おおにしみずなみの約0.9kmの整備を実施する。

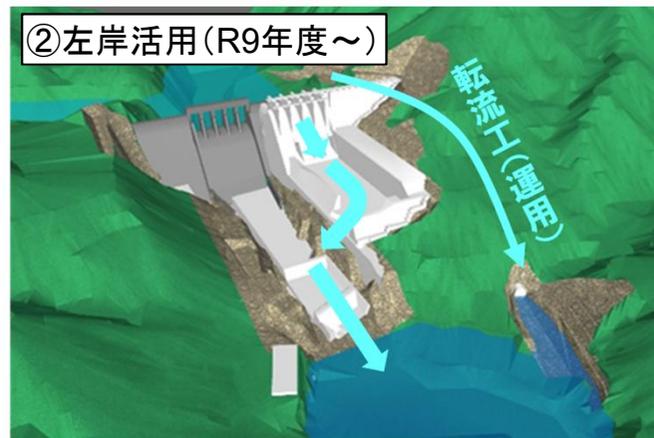
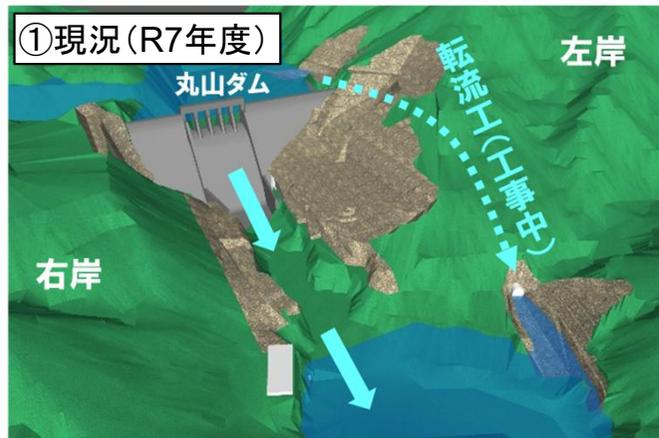
※工程は、現時点の予定であり、今後の状況等により変更となる場合がある

※実施年度予算ベースに対する着色

○事業工程

年度	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)	2031 (R13)	2032 (R14)	2033 (R15)	2034 (R16)	2035 (R17)	2036 (R18)
転流工	■													
本体掘削	■													
本体打設		■												
付替道路	■													
補償	■													
試験湛水				■									■	

○施工ステップ図



5) 第3回計画変更(R6.8)後の事業費増減

- ・第3回計画変更後に生じたコスト増減について下表のとおり。
- ・R6年度予算における現段階の増額の見通しでは、ダム本体に関わる低角度弱層の調査・対策検討の追加による約79百万円、付替道路に関わるコスト縮減にむけた計画検討の追加による約164百万円等の増額が必要となっており、減額を除いた増額は約88百万円となっている。

		主な項目	主な理由	増額	備考
令和6年度	増額	ダム本体関連	左岸基礎掘削箇所における低角度弱層の調査・対策検討に伴う増	約 78.9百万円	P16
		付替道路関係	コスト縮減にむけて、構造物の規模縮小等により整備費用・維持管理費用を抑えた計画への対応検討に伴う増	約 163.8百万円	P17
		その他増	実績精査による数量増	約 500.2百万円	—
	増額計			約 742.9百万円	—
	減額	その他減	実績精査による数量減	約 654.9百万円	—
		減額計		約 654.9百万円	—
令和6年度合計				約 88.0百万円	—
過年度累計	増額	純増		約 0百万円	—
		その他増		約 0百万円	—
		増額計		約 0百万円	—
	減額	純減		約 0百万円	—
		その他減		約 0百万円	—
		減額計		約 0百万円	—
	過年度合計				約 0百万円
合計				約 88.0百万円	—

物価上昇による影響想定額

リスク対策費 [※] の金額	約 270 億円
令和6年度 物価上昇相当額	0 億円

※予見不可能な将来の事業費の変動要因(残余リスク)に対応するために残事業費の1割をリスク対策費として見込んでおり、R6.8の第3回基本計画変更時(R6年度単価)において約270億円を計上している

6) 事業の進捗状況

○ 予算執行状況

- ・総事業費 約4,100億円
- ・R 6年度 約181.3億円
(補正予算含む)
- ・R 7年度 約167.9億円
- ・R 6年度迄 約1,681億円
(進捗率 約41%)

(令和7年3月末時点)

補償基準	H4. 3. 27 新丸山ダム損失補償基準妥結 (地権者との用地補償等に係る基準は全て妥結)	
用地取得 (118ha)	99% (117ha)	
家屋移転 (49戸)	100% (49戸)	
付替道路※ (14.4km)	92% (13.3km)	
工事用道路 (21.6km)	91% (19.6km)	
ダム本体及び 関連工事		
事業進捗率 (約4,100億円)	41%	

用地取得
 付替工事
 本体関連
 事業費

※ 付替道路は道路工事が着手された工事の施工延長の進捗率

6) 事業の進捗状況



位置図



堤体 (下流より上流を望む)



原石山 全景
令和7年8月撮影



骨材製造設備



国道418号7号橋(仮称)恵那市飯地側

2. 令和6年度予算

1) 実施内容

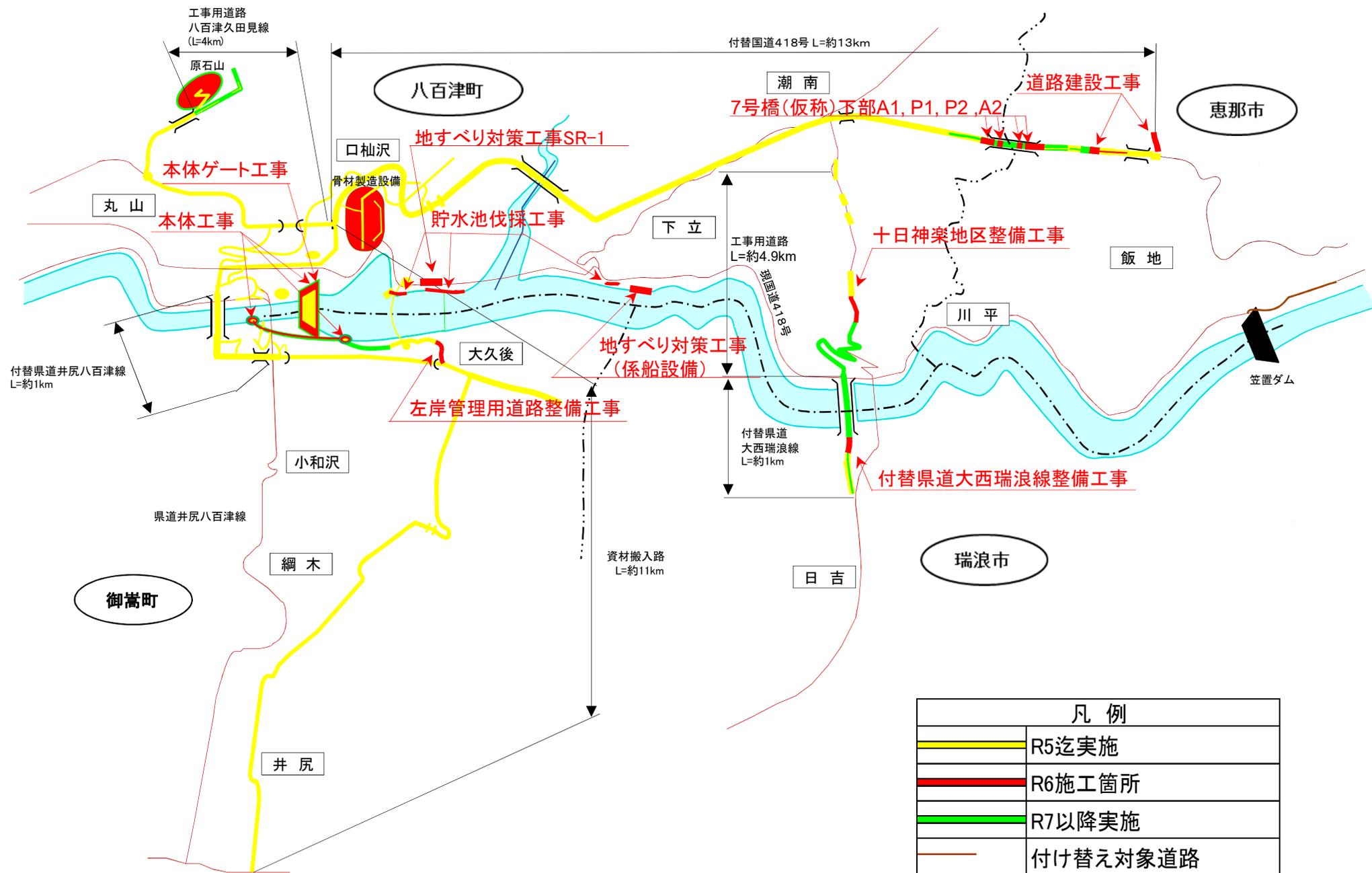
○令和6年度予算額

単位：百万円

予算費目	当初予算の主な実施内容	令和6年度当初予算				令和5年度補正予算			
		当初	変更	(増減額)	主な変更要因	補正	変更	(増減額)	主な変更要因
工事費		約 11,333.9	約 11,305.1	(-28.9)		約 500.0	約 500.0	(0.0)	
①施設維持等	工事用道路等の施設の維持・補修	約 65.9	約 119.0	(53.1)	【その他増】 維持・補修工事における実施数量の増。	約 500.0	約 462.1	(-37.9)	【その他減】 落札差金
②転流工関係	転流工工事								
③ダム本体関係	ダム本体工事、ダム本体ゲート工事	約 11,097.1	約 10,890.8	(-206.23)	【先送り減】 ダムサイト法面において、吹付法枠の枠内吹付が厚層基材吹付となっている箇所について、厚層基材の枠内吹付の施工を先送りとし減。 【その他減】 落札差金による減	約	約	(0.0)	
④ダム本体付属関係	原石山線、工事用道路整備 地すべり対策工事	約 0.0	約 175.7	(175.7)	【前倒し増】 SR-1 地すべり対策工事において、工事の前倒しに伴う増。 【その他増】 実施数量の精査による増	約 0.0	約 37.9	(37.9)	【その他増】 実施数量の精査に伴う増
⑤管理設備関係	発電設備、受電設備設置等	約 75.0	約 50.0	(-25.0)	【先送り減】 発電設備工事の不調に伴う先送り減	約 0.0	約	(0.0)	
⑥その他	工事監督支援等	約 95.9	約 69.5	(-26.5)	【その他減】 落札差金及び実施数量の精査による減	約	約	(0.0)	
測量設計費		約 634.6	約 797.4	(162.9)		約 612.0	約 612.0	(0.0)	
①継続調査	水理水文調査、環境調査	約 55.0	約 38.2	(-16.8)	【その他減】 落札差金による減	約 44.0	約 39.8	(-4.2)	【その他減】 落札差金
②ダム本体関係	堤体設計、地すべり調査等	約 60.0	約 107.5	(47.5)	【純増】 左岸基礎掘削箇所における低角度弱層の調査・対策検討に伴う増 【先送り減】 係船設備上屋設計業務の不調に伴う先送り減	約 378.0	約 384.9	(6.9)	【その他増】 実施数量の精査に伴う増
③付替道路関係	付替道路設計等	約 0.0	約 163.8	(163.8)	【純増】 コスト縮減にむけて、構造物の規模縮小等により整備費用・維持管理費用を抑えた計画への対応検討に伴う増	約 55.0	約 53.7	(-1.3)	【その他減】 落札差金
④用地調査関係	用地調査等	約 0.0	約 3.5	(3.5)	【その他増】 実施数量の精査による増	約 75.0	約 77.6	(2.6)	
⑤その他	発注者支援等	約 519.6	約 484.4	(-35.1)	【その他減】 実施数量の精査による減	約 60.0	約 56.0	(-4.0)	【その他減】 落札差金
用地費及び補償費		約 4,178.0	約 4,044.2	(-133.8)		約 700.0	約 700.0	(0.0)	
①用地補償関係	関西電力(株)等の特殊補償、用地補償	約 1,450.0	約 1,313.6	(-136.4)	【その他増】 補償金額の精査による増 【その他減】 新丸山発電所の補償工事における発電停止期間中の減電補償額について、実績の精査による減	約 700.0	約 700.0	(0.0)	
②付替道路工事関係	国道418号、大西瑞浪線の付替道路工事	約 2,728.0	約 2,730.6	(2.6)	【その他増】 実施数量の精査による増 【その他減】 実施数量の精査による減	約	約	(0.0)	
船舶及び機械器具費		約 66.8	約 66.8	(0.0)		約 0.0	約 0.0	(0.0)	
①電気通信施設保守点検等	電気通信保守点検等	約 66.8	約 66.8	(0.0)		約	約	(0.0)	
事業車両費		約 5.9	約 5.7	(-0.2)		約 0.0	約 0.0	(0.0)	
①車両管理関係	車両管理・点検等	約 5.9	約 5.7	(-0.2)	【その他減】 実施数量の精査による減	約	約	(0.0)	
工事諸費等		約 570.9	約 570.9	(0.0)		約 0.0	約 0.0	(0.0)	
①営繕・宿舍・車両・広報費等	車両・広報費等	約 570.9	約 570.9	(0.0)		約	約	(0.0)	
予算額		約 16,790.1	約 16,790.1	(0.0)		約 1,812.0	約 1,812.0	(0.0)	

※令和5年度補正予算は、令和5年11月29日に成立

2) 事業実施箇所



3) 個別説明

(1) ダム本体関係 工事費の主な変更要因

変更要因

【198.4百万円 先送り減】

ダムサイト法面において、吹付法枠の枠内吹付が厚層基材吹付となっている岩盤部について、表土部と比較して付着しにくいことから、付着性の高い工法などの検討を行うため、厚層基材の枠内吹付の施工を先送りとした。施工工法について今後検討していく。



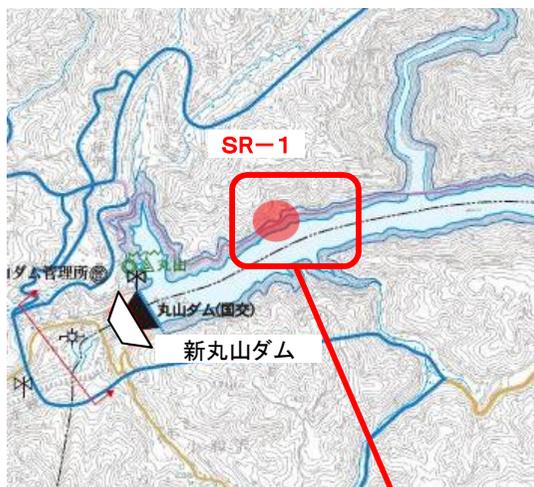
3) 個別説明

(2) ダム本体付属関係 工事費の主な変更要因

変更要因

【134.3百万円 前倒し増】

SR-1 地すべり対策工事において、法面工事の前倒しを行い工事進捗を図る。



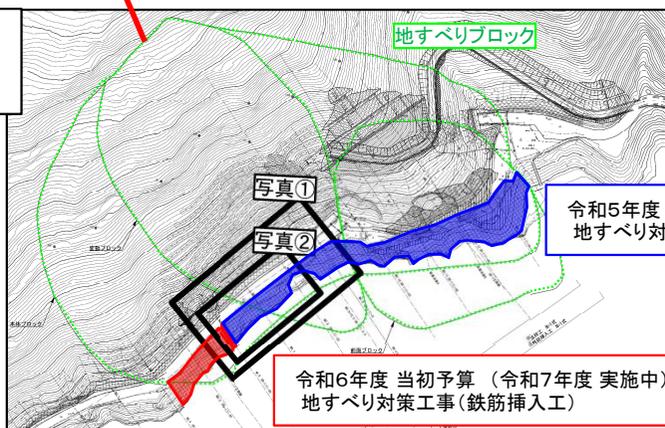
写真①



写真②



SR-1
計画平面図



3) 個別説明

(3) ダム本体関係 測量設計費の主な変更要因

変更要因

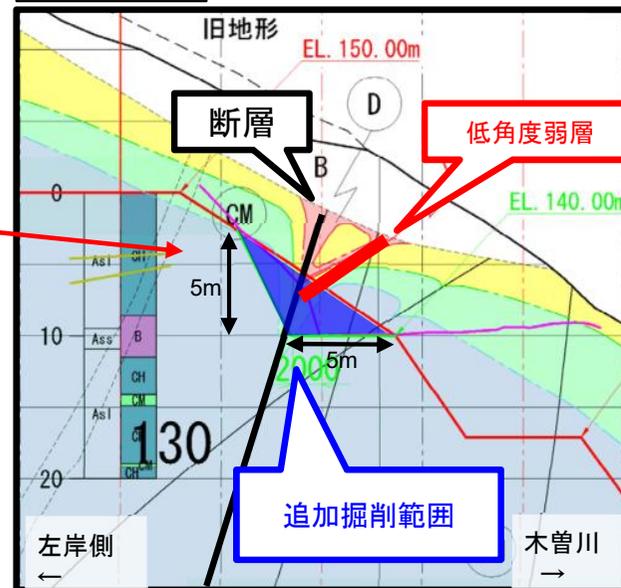
【78.9百万円 純増】

左岸基礎掘削箇所における低角度弱層の対策にあたり、詳細な調査として対象箇所を掘削し、低角度弱層が途切れる場所を特定し対策範囲を確定した。対策方法の検討として、安定性評価・温度応力解析等も行ったため、調査・対策検討を実施したことによる増

位置図



左岸断面図



調査後



■ 追加掘削した箇所については、ダム本体と同様のコンクリートで打設する。
【追加掘削土量 約1,300m³】

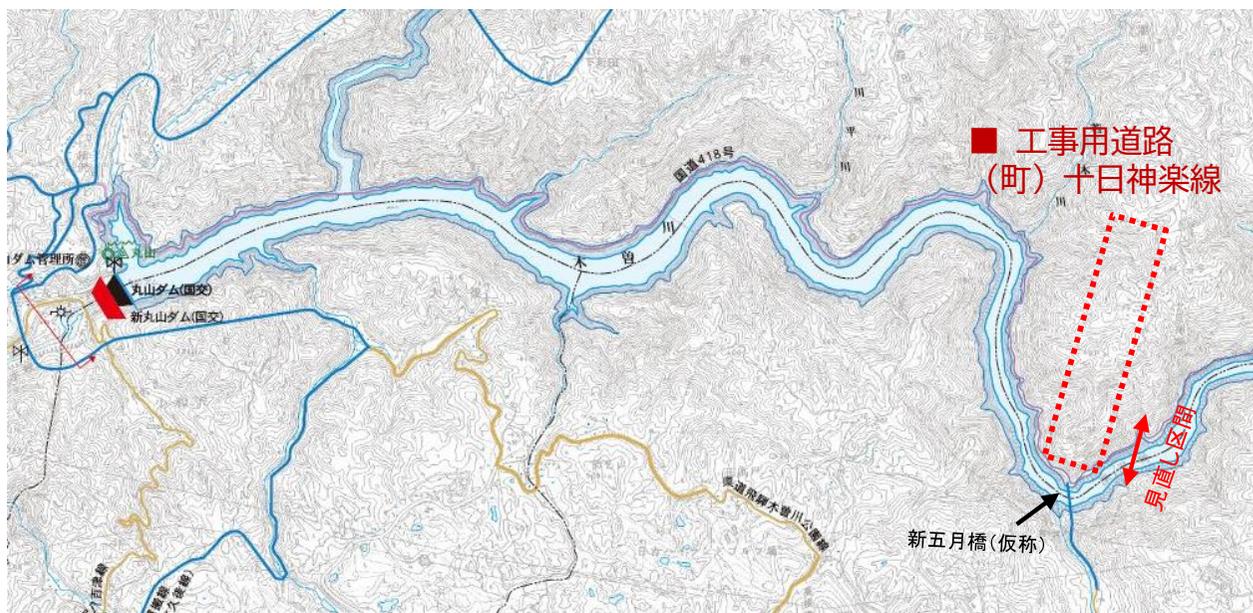
3) 個別説明

(4) 付替道路関係 測量設計費の主な変更要因

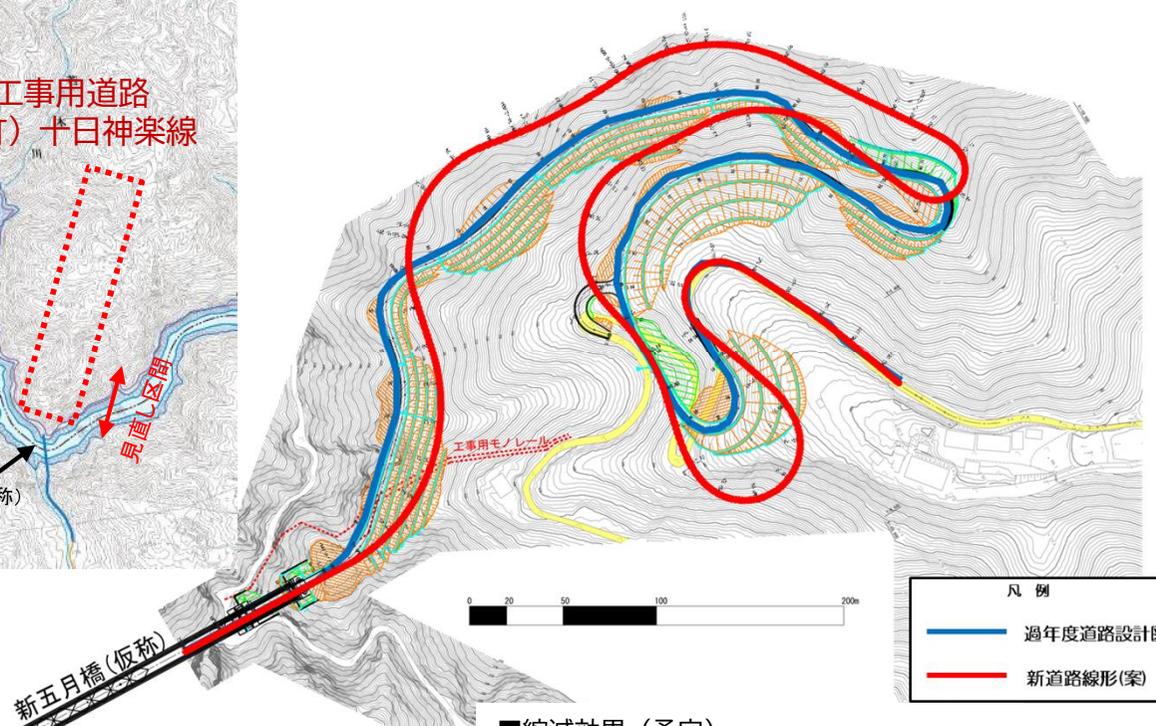
変更内容

【163.8百万円 純増】

コスト削減にむけて、構造物の規模縮小により整備費用・維持管理費用を抑えるため道路線形の見直し、各種調査設計（測量、地質調査、設計業務）に伴う増
一時的に測量設計費が増加するが、工事費は縮減される見込み。



代表事例 十日神楽線線形見直し



■縮減効果(予定)
大規模切土削減：切土6段→3段
グラウンドアンカー大幅低減：
総延長6,150m→ゼロ
擁壁高縮小：最大5m低減

3. 令和7年度予算

1) 実施内容

○令和7年度予算額

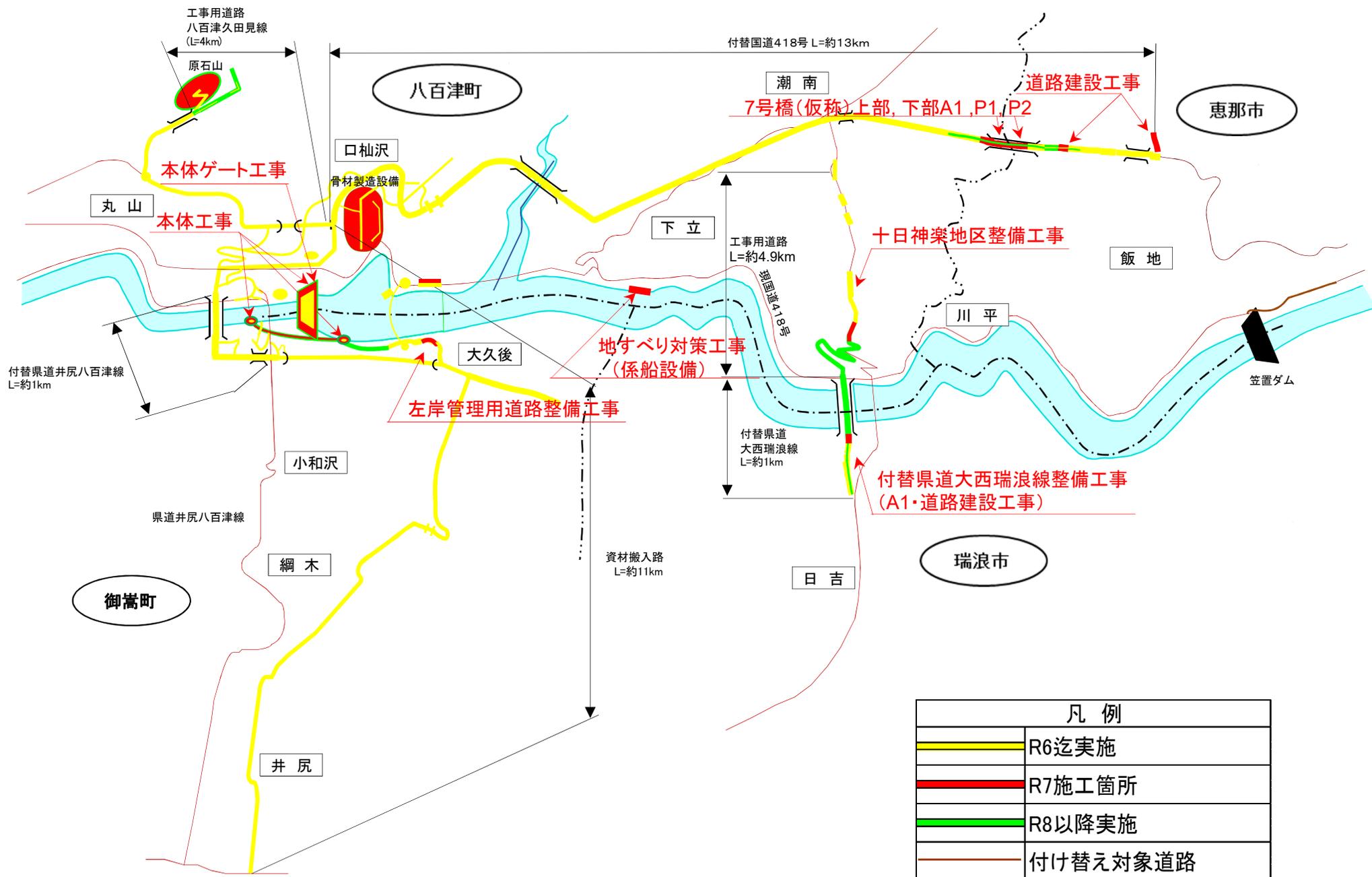
単位：百万円

予算費目及び主な実施内容		令和7年度当初予算	(参考値) 令和6年度当初予算	(参考値) 令和6年度当初予算変更	令和6年度補正予算
工事費		約 10,016.5	約 11,333.9	約 11,305.1	約 861.0
①施設維持等	工事用道路等の施設の維持・補修	約 77.5	約 65.9	約 280.0	約 861.0
②転流工関係	転流工工事	約 8,629.0	約 11,097.1	約 10,890.8	約 0.0
③ダム本体関係	ダム本体工事、ダム本体ゲート工事				
④ダム本体付属関係	工事用道路整備 地すべり対策工事	約 497.2	約 0.0	約 14.8	約 0.0
⑤管理設備関係	発電設備、受電設備設置等	約 685.0	約 75.0	約 50.0	約 0.0
⑥その他	工事監督支援等	約 127.8	約 95.9	約 69.5	約 0.0
測量設計費		約 1,302.1	約 634.6	約 797.4	約 210.0
①継続調査	水理水文調査、環境調査	約 135.9	約 55.0	約 38.2	約 0.0
②ダム本体関係	堤体設計、地すべり調査等	約 325.0	約 60.0	約 107.5	約 123.0
③付替道路関係	付替道路設計等	約 100.0	約 0.0	約 163.8	約 0.0
④用地調査関係	用地調査等	約 106.0	約 0.0	約 3.5	約 17.0
⑤その他	発注者支援等	約 635.2	約 519.6	約 484.4	約 70.0
用地費及び補償費		約 4,768.0	約 4,178.0	約 4,044.2	約 265.0
①用地補償関係	関西電力(株)等の特殊補償、用地補償	約 2,870.0	約 1,450.0	約 1,313.6	約 0.0
②付替道路工事関係	国道418号、大西瑞浪線の付替道路工事	約 1,898.0	約 2,728.0	約 2,730.6	約 265.0
船舶及び機械器具費		約 66.8	約 66.8	約 66.8	約 0.0
①電気通信施設保守点検等	電気通信保守点検等	約 66.8	約 66.8	約 66.8	約 0.0
事業車両費		約 5.9	約 5.9	約 5.7	約 0.0
①車両管理関係	車両管理・点検等	約 5.9	約 5.9	約 5.7	約 0.0
工事諸費等		約 631.6	約 570.9	約 570.9	約 0.0
①営繕・宿舎・車両・広報費等	庁舎・宿舎維持、広報等	約 631.6	約 570.9	約 570.9	約 0.0
予算額		約 16,790.9	約 16,790.1	約 16,790.1	約 1,336.0

※令和6年度補正予算は、令和6年12月17日に成立

※令和7年度当初予算には、補正予算は含まない

2) 事業実施箇所

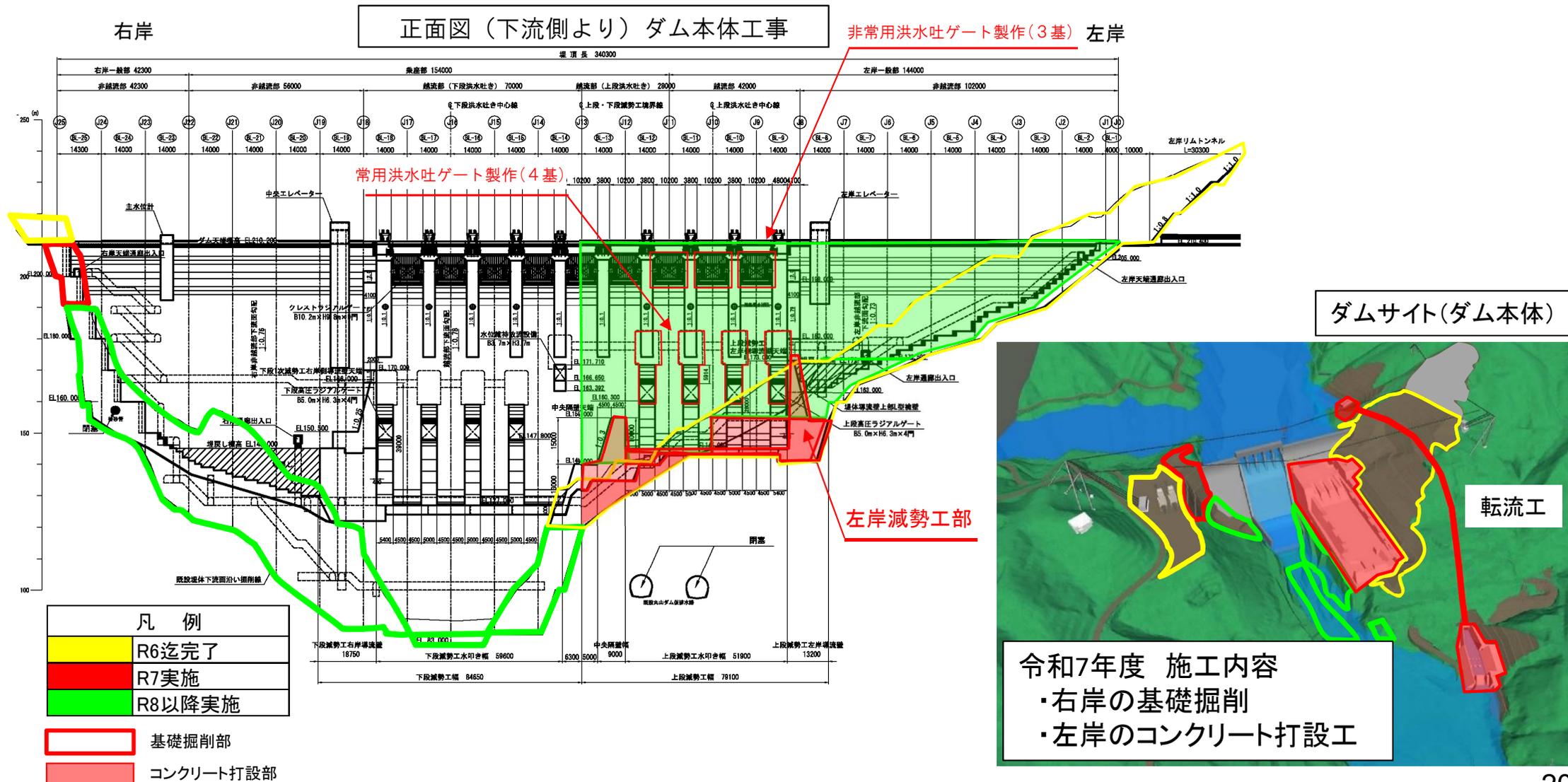


3) 個別説明

(1) ダム本体関係 工事費 (1/2)

ダム本体2期工事を令和6年度に契約、常用洪水吐ゲート工事を令和3年度に契約、非常用洪水吐ゲート工事を令和6年度に契約し、ダム本体工事を整備中。

当初(百万円)	実施内容
約10,016.5	①ダム本体2期工事中において、コンクリート打設を実施し関連工事を継続する。 ②ダム本体ゲート工事中において、常用・非常用洪水吐ゲートの工場製作を実施する。



3) 個別説明

(1) ダム本体関係 工事費 (2/2)

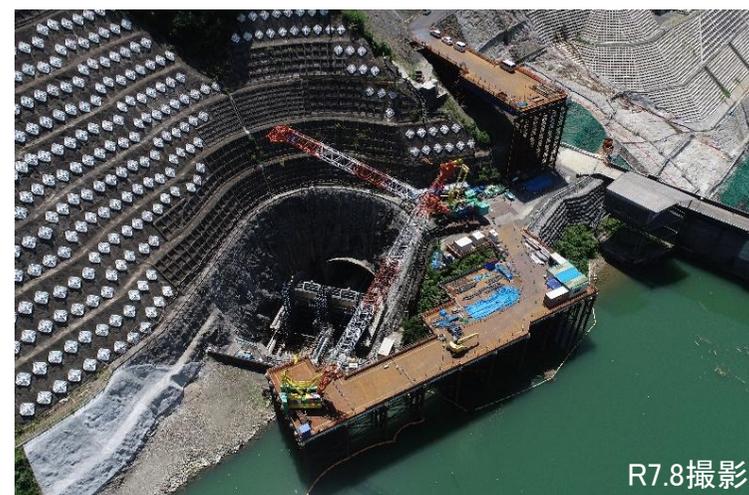
当初(百万円)	実施内容
約10,016.5	③ダム本体2期工事において、骨材製造工を実施する。 ④ダム本体2期工事において、原石山の表土掘削や原石採取を実施する。 ⑤ダム本体2期工事において、転流工呑口部、吐口部のコンクリート打設工を実施する。



令和7年度 施工内容
・呑口部、吐口部のコンクリート打設工

凡 例	
■	R6迄完了
■	R7実施
■	R8以降実施

転流工呑口部現況



施工内容：原石山の表土掘削、原石採取

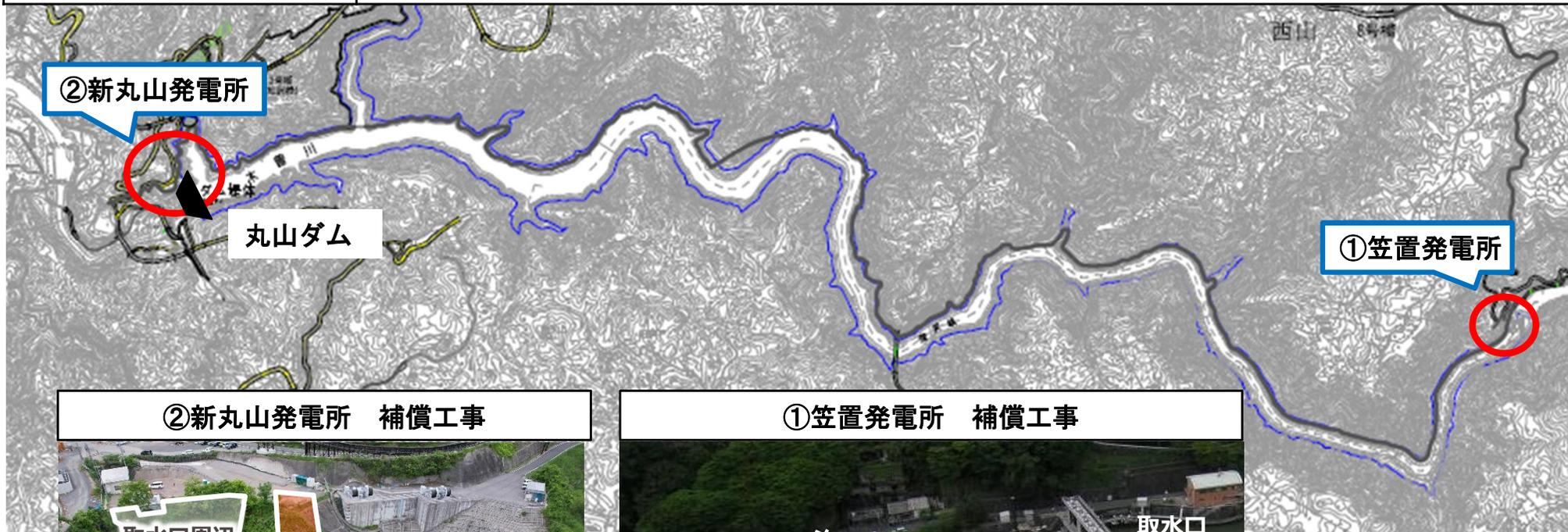


施工内容：骨材製造工

3) 個別説明

(2) 用地補償関係 用地費及び補償費

当初(百万円)	実施内容
約2,870.0	①新丸山ダム建設に伴うダム水位上昇の影響を受ける笠置発電所について、令和元年度から実施している防水壁嵩上げや放水路補強等の機能回復補償を継続する。 ②新丸山ダム建設に伴うダム水位上昇の影響を受ける新丸山発電所について、令和4年度から実施している発電取水施設等の機能回復補償を継続する。



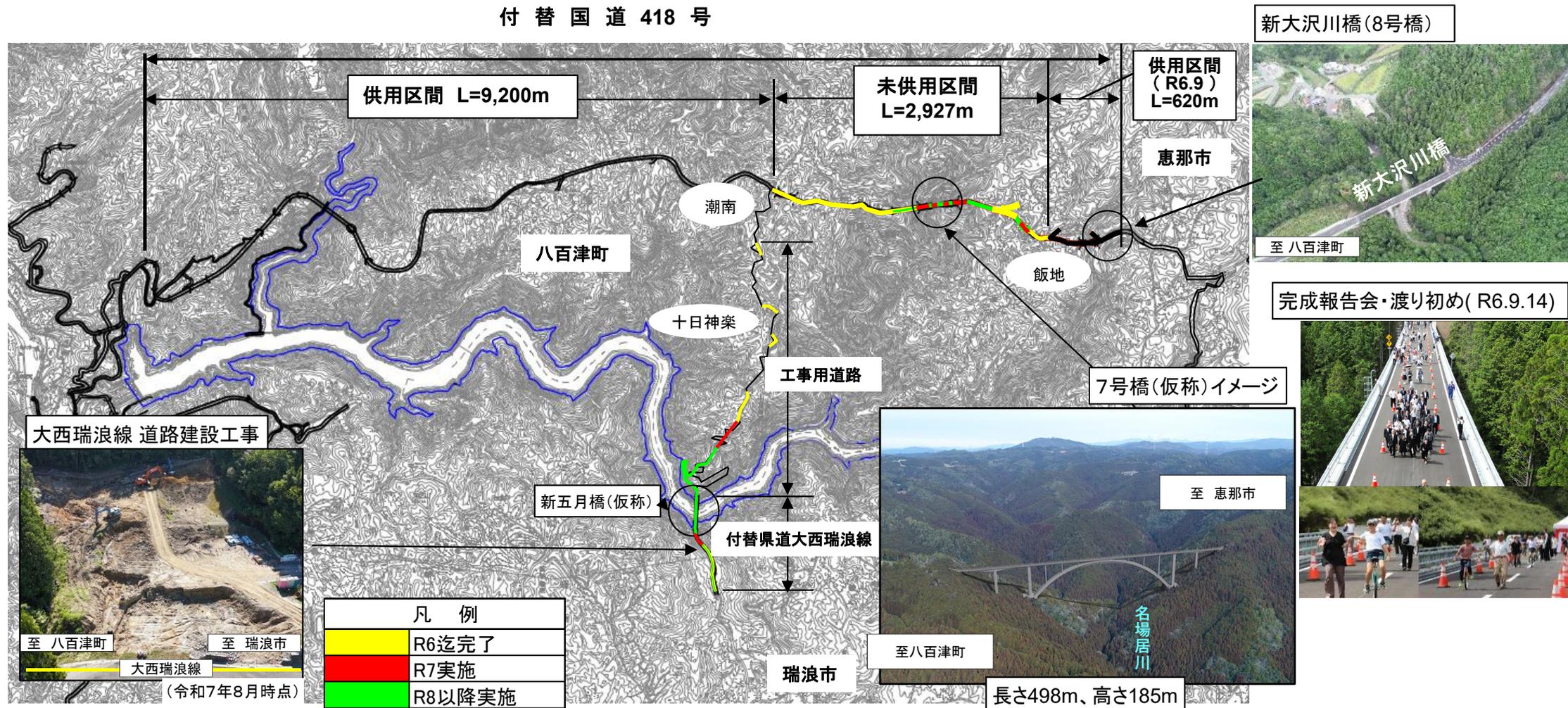
3) 個別説明

(3) 付替道路工事関係 用地費及び補償費

新丸山ダム建設に伴い現国道418号および県道大西瑞浪線五月橋の機能補償として、付替国道418号の潮南以東の未供用区間および付替県道大西瑞浪線を継続して整備中。

当初(百万円)	実施内容
約1,898.0	付替国道418号において、7号橋(仮称)下部工および新大沢川橋(8号橋)周辺道路工事を実施する。大西瑞浪線において、新五月橋(仮称)の着手に向けて進入道路工事を実施する。

付替国道418号



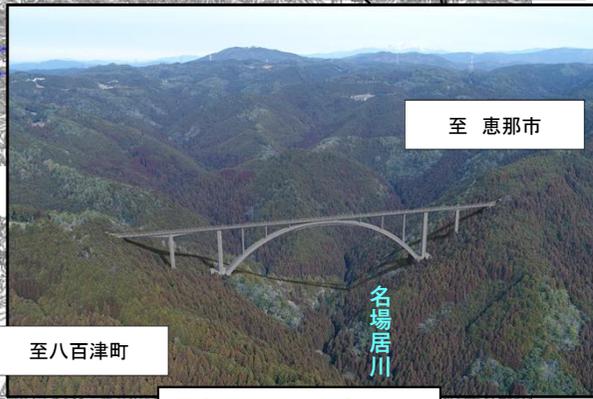
新大沢川橋(8号橋)



完成報告会・渡り初め(R6.9.14)



7号橋(仮称)イメージ



長さ498m、高さ185m



(令和7年8月時点)

4. コスト縮減

- 第3回計画変更(R6.8)以降も工期短縮策・コスト縮減策を引き続き実施する。
- 新たなコスト縮減対策として、他ダムで実績のある技術等の採用を検討するとともに、今後、新たに開発される新技術についても随時、本事業における適用を検討し、コスト縮減に努めていく。

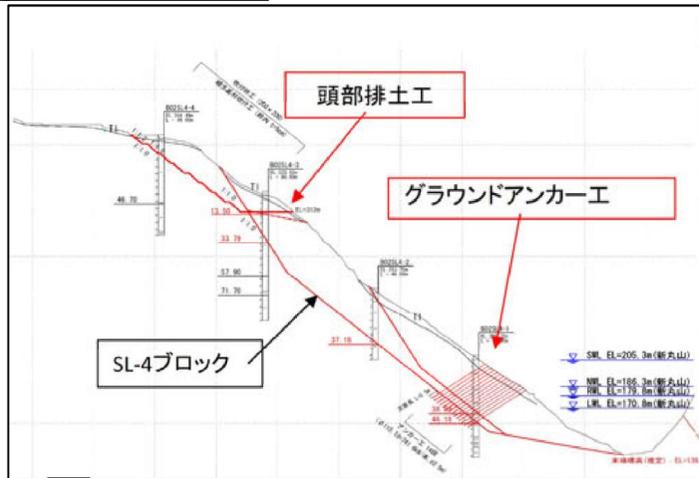
主な工種	工期短縮策		コスト縮減策	
堤体工 (掘削、堤体打設、放流設備 等)	・堤体打設における作業効率の向上 (自律型コンクリート打設システム)	【検討中】	・堤体打設における作業効率の向上 (自律型コンクリート打設システム) ・堤体基礎掘削岩の骨材活用	【検討中】 【検討中】
仮設備工 (骨材製造・コンクリート設備 等)	・骨材製造における作業効率の向上 (自律型コンクリート打設システム)	【検討中】	・骨材製造における作業効率の向上 (自律型コンクリート打設システム)	【検討中】
道路工 (工事用道路、付替道路)	・道路線形・工法の検討	【検討中】	・現地発生土の有効利用 ・道路線形・工法の検討	【検討中】 【検討中】
その他工事 (地すべり対策、法面対策 等)	・ 工法の検討	【検討中】 (P25)	・現地発生土の有効利用 ・ 工法の検討	【検討中】 【検討中】 (P25)
管理設備工 (通信・警報・観測設備、建物 等)	・新技術等で適用可能なものがないか検討を進めていきます。			
諸調査 (測量、設計、環境調査 等)				

4. コスト縮減

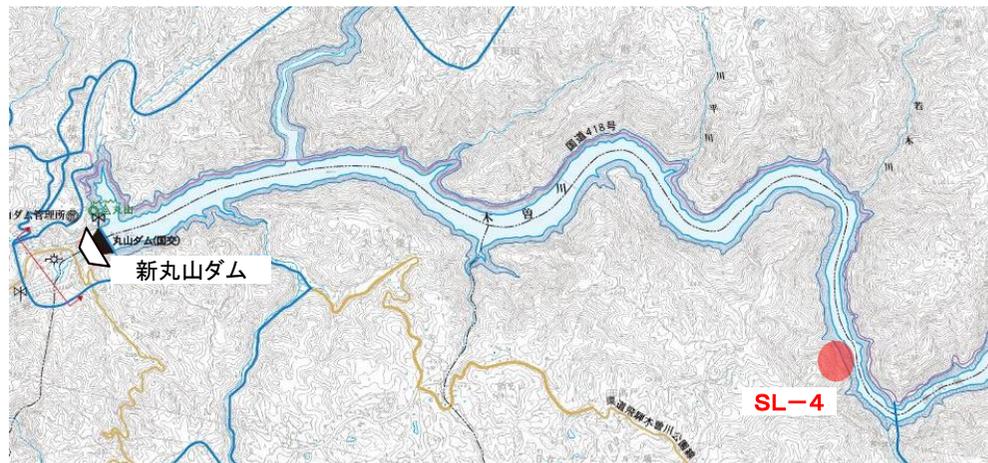
●地すべり対策工の工法見直し(SL-4ブロック)

地すべり面を確認するためのボーリング調査を追加した結果、地すべりブロックが前面ブロックと追従ブロックに分かれていることが判明し、工法を見直した。

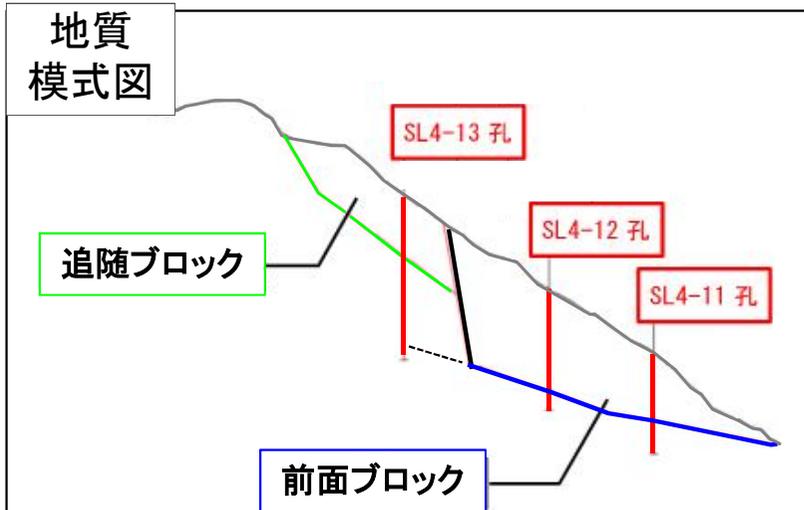
①概略検討時点



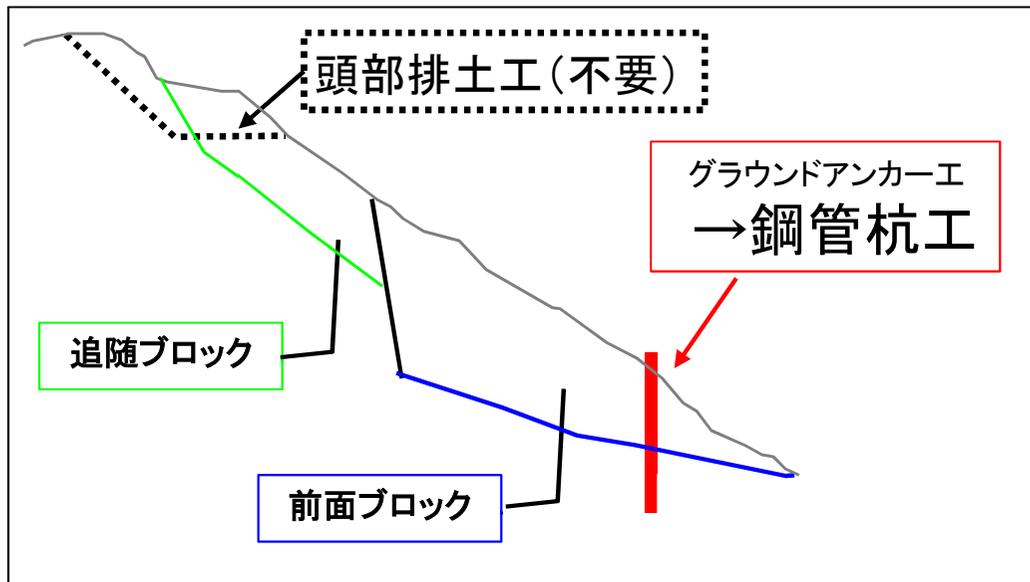
○位置図



②ボーリングの追加調査箇所



③詳細設計



5. 新丸山ダムにおける取り組み(情報発信)

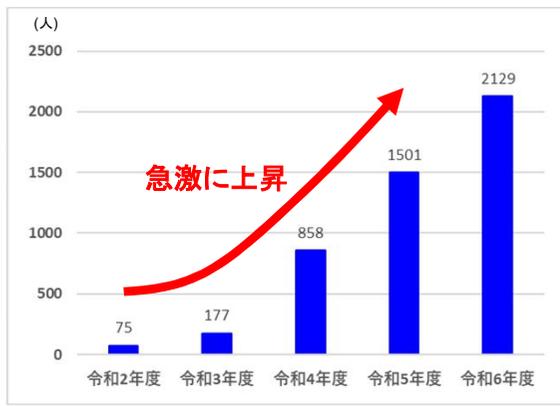
■デジタルサイネージ

- ・令和7年3月に新丸山ダム工事事務所広報スペースにデジタルサイネージを設置しました。
- ・現場見学に訪れた方への説明やダム周辺地域のPRに活用しています。



■工事現場見学会の開催

- ・AR(拡張現実)機器を用いて、今しか見られないダム本体工事等の現場見学を実施。
- ・令和5年度に現場を訪れた人数は1501人。令和6年度は、2129人。



大学生による現場見学会

見学者数の推移

■SNSによる工事情報等の発信

- ・丸山ダムの管理や新丸山ダム建設事業に関する各種イベントや工事情報等についてSNSに掲載し発信中。令和7年7月には、フォロワー数1,700人を突破。



5. 新丸山ダムにおける取り組み(建設DXの活用)

- ・令和7年2月20日、新丸山ダム本体工事において、建設DXを活用した自律型コンクリート打設システム構築に向けて、第3回実証実験を実施しました。
 - ・今回の実験では、従来手動操作としていたコンクリート運搬に用いるケーブルクレーンにおいて、揺れ動きを制御し発進地点から目標地点までの往復の自律運転を行い、実用性を確認しました。このような実証実験を通して、ダム本体建設での生産性・安全性向上を引き続き目指します。
- 実験参加者: 32人(国土交通省職員11人、工事関係者17人、報道関係者4社(4人))

【実証実験】



自律運転の様子

熟練した作業員のケーブルクレーン運転技術を自律運転で再現



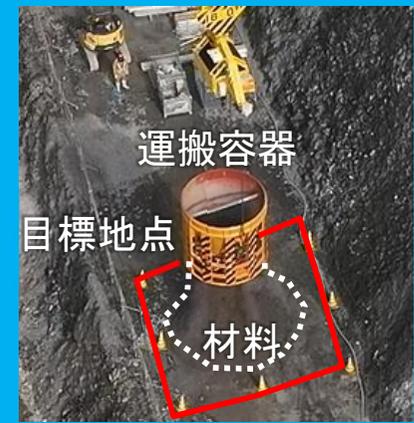
ケーブルクレーン集中管理室



運搬容器の揺れ動きをセンサーで感知・制御



カメラで運搬容器下の障害物を検出し事故防止



材料放出時の跳ね上がりを抑制し、挙動を安定

5. 新丸山ダムにおける取り組み(地域振興)

■「新丸山ダム水源地域協議会」の開催

- ・丸山ダム周辺における自然、文化、伝統等の地域資源とともに、新丸山ダム建設に伴う基盤整備等を活用して、新丸山ダム周辺地域(瑞浪市、恵那市、八百津町、御嵩町)の振興に資する効果的な施策の検討を目的として「新丸山ダム水源地域協議会」を実施しており、「新丸山ダム周辺地域振興ビジョン」を令和5年3月にとりまとめた。
- ・新丸山ダム周辺地域振興ビジョンを基に、「魅力をつなぐプロジェクト」として、2市2町と新丸山ダム関係機関が連携して取り組みを加速化させる具体的な地域振興策をとりまとめ、グルメ・自然アクティビティ・歴史文化・防災・情報発信をそれぞれプロジェクト化およびアクションプランを計画し、2市2町周遊ダムツアーのモデルコース作成、防災教育等を実施している。



■グルメイベントの連携



瑞浪市・八百津町が出店 (R6.10.19)



協議会事務局ブースを出店 (R6.11.3)

■防災教育



錦津小学校現場見学 (R6.9.24)



八百津町社会科副読本制作支援 (R6)

■新丸山ダム水源地域協議会ロゴマークの選定



・名古屋造形大学の学生がデザインした全23案から選定 (R5)

※「新丸山ダム周辺地域振興ビジョン」パンフレットより抜粋

※令和5年度、令和6年度の新丸山ダム水源地域協議会資料より抜粋